

コトバカっ!



コトバカ
言葉家……言葉を操る専門家。言葉にバカに詳しい人。言葉にバカみたいにこだわる人。

コトのほかバカ。コトによるとバカ。コピーライターの俗称。

上から読んでも相川藍、下から読んでも相川藍。コトバカの相川藍が言葉についてコトバカるっ!

イルなオトナ

言葉は、使われることで変化していく。いつのまにか本来の意味とは逆のニュアンスを獲得したりして。「ヤバイ」がいい例だ。もとは否定的な言葉なのに、いつからか「ものすごくかっこいい」という感嘆の形容詞へと昇格。「瞬どつちの意味だかわかんないよっていう危うさも含めてエキサイティングだ。「あの子超ヤバイね!」「このラーメン、ヤバくない?」などと使われる場合、たいていは絶賛だが、まれに有毒の場合も。

このヒップホップ版で、最近「イル(ー)」という言葉を耳にする。ストリートに訳せば「病気」だけど「病的なほどぶっとんでいて普通じゃない」というほめ言葉。「彼のギターはイルだ」「深夜にオープンするイルな店」のように使われる。ただし、本当に病んでいそうなものに使ってもシャレにならない。「イルな世の中」とか「ヤバイ内閣」とか言っても、ね、つまらないでしょ。っていうかそのまんま過ぎる。そもそも、ヤバイもイルも若者カルチャー用語なので、大人には似合わないのだ。

大人が普通に使う言葉で最近おもしろくなってきたのは、まさにこの「オトナ」という言葉だ。「大人買い」が広辞苑に収録されるほど「一般に定着したのも大きい。平たくいえば「まとも買い」だけど、大人買いの現実はおまけ付きのお菓子を大量に購入したり、高級品を成金っぽく買い占めたり、どう考えても大人げない行動としか思えない。

おかげで今や「オトナ」は相当カジュアルに格下げされていて、「俺たちオトナなんだから我慢しようぜ」などというセリフはぜんぜん大人っぽくないばかりか、かえって未熟さを強調する。女の子や女子という言葉が使いつらくなった女性だって、「私もオトナになったわあ」「もっとオトナにならなくちゃ」なんて平然と可愛らしく言ってしまうってオツケーなのである。きゃあ、なんて便利なもの。

しかし、そのせいで、本来のクールなオトナを表現する言葉がなくなっってしまったのだとしたら……これって超ヤバイ、イルな事態!

あいかわあい ことばか
相川藍(言葉家)

丸の内文学賞(大賞)、朝日広告賞(最高賞)、インターネット書評コンテスト(最優秀賞)受賞。早稲田大学第一文学部卒。コピーライター。